

『ザビエルさんの本』

評者 坂東 省次

今年は、日本に初めてキリスト教を伝えた聖フランシスコ・ザビエル生誕 500 年の記念すべき年にあたる。3 月下旬にスペインに旅したが、目的地は、本学の協定校ナバラ大学のある北部ナバラ州パンプロナ市。ここから車で 1 時間ほどのところに、ザビエルさんが生まれたザビエル城がある。とくに今年はザビエル生誕 500 年を記念して、ローマからザビエルの右腕が運ばれ、訪れる人々の注目を引いていた。

パンプロナ市の常宿はホテル「レイノ・デ・ナバラ」(Reino de Navarra)。その前には「山口公園」が広がり、緑の芝生は「夕暮れ文化」を満喫する人々でいっぱいだった。ザビエルさんは 1550 年と 51 年の二度、山口を訪れ、大内義隆の許可を得て布教活動をした山口ゆかりの宣教師。山口市とパンプロナ市は 1980 年から、また山口県とナバラ州は 2003 年から姉妹都市提携を結んでおり、今年 6 月には山口県から 100 人をこす使節団がザビエル城を訪れ、記念行事に参加する予定である。

聖フランシスコ・ザビエルは日本を初めて訪れたスペイン人として紹介されることがままある。最初のスペイン人はじつは北西部ガリシア出身のペロ・ディエスであり、ザビエルさんは初めてキリスト教を日本に伝えたスペイン人であることを今一度強調しておく。しかし、ザビエルさんの名は日本では宗派をこえて誰もが知っている。来日から 450 年を数えた 1999 年に『芸術新潮』が親しみを込めて「ザビエルさん」と呼んでいた。以来、私もザビエルさんと呼んでいる。

そのザビエルさんが来日したのは 1549 年のこと。ザビエルさん来日のきっかけとなったヤジロウらと鹿児島に上陸して 1 年間滞在した後、山口や豊後で布教活動を行って 1551 年に離日した。2 年数ヶ月にわたる日本滞在の間、500 人以上の日本人がキリスト教に帰依したと言われるが、ザビエルさんの評価はキリスト教布教の成果をこえて多岐にわたっている。

その一つは、ザビエルさんの残した書簡が同時に外国人最初の日本人論であるということだ。その中でザビエルさんは、日本人の勤勉さと能力を高く評価している。

二つめは、日本人最初の留学生を海外に派遣したことだ。その一人、鹿児島出身の教名ベルナルド(日本人名は不詳)という青年が日本人として初めてポルトガル、スペインそしてイタリアを訪れた。残念ながら、ポルトガルで病死したため日本人にヨーロッパ報告ができなかったが、ザビエルさんの構想は後に天正少年使節と慶長遣欧使節に受け継がれた。ザビエルさんは日本人が広く世界を知ることがなによりも願っていたのであった。

それにしてもベルナルドといいその後の二つの使節といい、彼らのヨーロッパでの行動からは、明治以降の欧米コンプレックスにとらわれていない堂々たる日本人の姿が見えてくる。伝統的な日本人の姿が消えてゆこうとしている今日、ザビエルさんを通して南蛮時代の日本人に思いを馳せるのもまた、21 世紀を生きる我々に大切な試みかも知れない。

そこでザビエルさんを知る文献であるが、ザビエルさんの全体像を扱う文献より、ここでは実際にザビエルさんが訪れた主要地 鹿児島、平戸、山口、堺、京都、豊後 に関する文献を紹介しておく。ここから全体像を抱くことで新たなザビエル像が浮かび上るかも知れないからである。

小平卓保『鹿児島にきたザビエル』春苑堂出版、1998；外山幹夫「ザビエルと平戸」；井溪明「堺とザビエル」；三俣俊二「ザビエルとミヤコ」(以上、『スペインと日本—ザビエルから日西交流の新時代へ』行路社、2000；ラウレス・ヨハネ「山口に於ける聖フランシスコ・サヴィエル」山口ザビエル遺跡顕彰委員会、1949；加藤知弘『ザビエルの見た大分—豊後国際交流史』葦書房、1985。

やはり全体像を知る本を読みたいという方には、尾原悟『ザビエル』清水書院、1998、を挙げておく。

ばんどう しょうじ(教授・スペイン語学)